



特集

白内障について

眼科部長 / 田口 浩司

シリーズ

- 認定看護師のご紹介
『認知症看護認定看護師』
- 管理栄養士のレシピ
『八宝菜』

トピックス

- 母乳外来料金改定のお知らせ
- 市民フォーラム
- 患者満足度調査結果のご報告
- ボランティア表彰

眼科部長／田口 浩司



白内障とは…目の中でレンズの役割をしている水晶体が白く濁る病気です。この濁りが原因で目のかすみやまぶしさ、視力低下といった症状が出現します。加齢が最大の原因で、皆がになってしまう病気です。他の原因として目の怪我やステロイドなどの薬剤、アトピーなどがあります。



白内障の治療

レンズの濁りを消すお薬は点眼、内服共にありませんので、治療は経過観察か手術か、この2つとなります。

手術するタイミングは基本的には患者さんのご希望によります。白内障により日常生活に悪影響がでてきて不自由を感じるようになれば手術を考慮します。

ただ、白内障は濁りの進行と共に硬さも増します。手術の難易度が上がっていくこととなりますので、長く放置は避けるべきと言えます。

白内障手術について

最も一般的に行われている超音波白内障手術について説明します。

手術は局所麻酔(点眼麻酔)で行い、手術時間は約30分です。

- ① 手術ベッドの上で消毒した後、点眼麻酔を行います。
- ② 手術創切開(約2.4ミリ)を作製し、水晶体をつつむ袋(カプセル)の前面を丸く切り抜きます。(図1)
- ③ 超音波乳化吸引装置で濁った水晶体内部を吸引します。(図2)
- ④ 残った水晶体のカプセル内に人工レンズ(眼内レンズ)を挿入し(図3)固定します。(図4)

白内障がかなり進行している場合など、超音波で吸引できない場合は、大きな切開を用いた囊外摘出術という手法を用いることがあります。

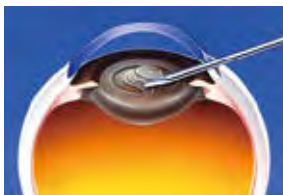


図1

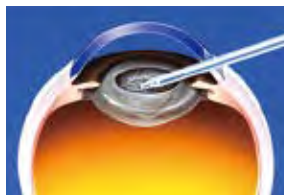


図2

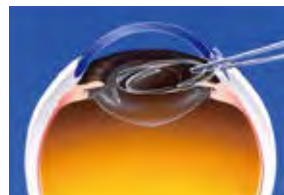


図3

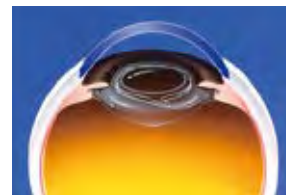


図4

人工レンズ(眼内レンズ)について

人工レンズは、眼鏡やコンタクトレンズと同様にいろいろな度数があります。手術前の検査にて適切な度数を算定することで、遠視や近視の矯正も期待できます。また人工レンズは将来濁ることはまずありませんので、白内障手術は1回のみで解決すると言えます。

しかし残念ながら人工レンズには調節力がありません。すなわち裸眼で遠くが見やすい人工レンズを選択した場合は、近く用の眼鏡が必要となり、逆に裸眼で近くを見やすくする人工レンズを選択した場合には、遠く用の眼鏡が必要となります。遠近ともによく見えるようにすることはできません。手術後も眼鏡が必要です。

術前にどのような見え方を希望するのか眼科医とよく相談してください。

手術後の視力回復

白内障以外に目の病気がない場合には手術による視力改善が期待できます。白内障以外の目の病気、特に網膜に病気があるときには、手術後期待したほど視力改善が得られないことがあります。術後、色の違和感やまぶしさが残ることがあります。眼鏡の処方術後1ヶ月以降に考慮することが一般的です。

手術の合併症

後嚢破損

水晶体のカプセルの破損を指します。術前から破損している場合や手術中に破損する場合があります。破損が小さい場合は眼内レンズの挿入は可能ですが、手術時間の延長や術後視力回復が遅れる場合があります。破損が大きい場合には人工レンズを挿入せず術後眼鏡やコンタクトレンズで視力を矯正する(強い遠視のため)もしくは再手術で人工レンズを縫い付ける場合があります。

チン氏帯断裂

水晶体のカプセルと眼球を結ぶチン氏帯の断裂です。術中にカプセルが眼球から外れ、眼内レンズの挿入、固定が不可能な場合があります。眼を強くうったことがある方や緑内障や高齢者の方におこる傾向があります。

眼内出血

手術中に眼圧が変動することによって生じる目の中の大出血です。非常に稀ですが、すべての目の手術で起こる可能性があります。一旦起こると視力の回復は困難です。

術後の合併症

眼内炎

傷口から細菌などが眼内にはいることによる感染。手術の創より病原菌がはいり、眼内感染を起こす可能性があります(約0.1%)。眼内感染がおこった場合、再手術、抗生剤の投与をおこないます。感染をおこすと最悪の場合失明してしまう場合もあります。感染予防のためにも術前、術後の点眼を指示通り行う必要があります。

黄斑浮腫

術後の炎症が網膜の中心(黄斑)に影響を及ぼし、視力回復がおくれる場合があります。炎症をおさえる点眼が術後少なくとも1, 2か月は必要です。

水疱性角膜症

角膜(黒目)が透明でいつづけるために重要な細胞(角膜内皮細胞)が減少している場合、白内障手術でさらにそれが減少し、角膜が水膨れを起こし濁りや痛みの原因になることがあります。角膜内皮細胞は増やすことができません。術前の角膜内皮細胞の検査が必須です。

術後屈折値のずれ

術後屈折値(ピントの位置)は手術前に詳細に計算されますが、予想とずれることがあります。ずれが少ない場合は眼鏡で対応します。ずれが大きい場合は、眼内レンズの入れ替えが必要となる場合があります。その場合通常術後3ヵ月以内に入れ替えを行います。

後発白内障

術後数ヵ月から数年で、水晶体のカプセルが濁り、視力が再び低下することが多くあります。その場合、もう一度手術の必要はなく、YAGレーザーという外来での処置で視力回復を目指します。

最後に

白内障は眼科で一番件数の多い手術であり、それだけに手術機械や手技も飛躍的に向上しています。当院でも最新の超音波乳化吸引装置(図5)、手術顕微鏡(図6)、手術ベッド(図7)、手術記録装置(図8)を導入し、より良い手術結果を日々めざしています。

ただ、より良い手術結果には患者さんの手術に対する深いご理解が不可欠です。疑問などございましたら外来にてご遠慮なくお尋ねください。

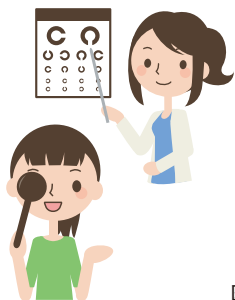


図5



図6



図7



図8





認定看護師のご紹介



認定看護師とは、特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を用いて水準の高い看護実践ができる看護師のことです。看護現場において最適な看護の実践と、指導および相談の3つの役割を果たすことにより、看護ケアの広がりや質の向上を図ります。

当院では現在、6分野（感染管理、新生児集中ケア、皮膚・排泄ケア、乳がん看護、慢性心不全看護、認知症看護）9名の認定看護師が在籍しています。

広報誌『なでしこ』では、当院で活躍する認定看護師を順次ご紹介していきます。

私は認知症看護認定看護師の資格を取得し、5年目になります。超高齢社会となった日本では認知症をもつ方が年々増加しています。65歳以上の高齢者のうち、4人に1人が認知症とその予備軍になり、認知症をもつことは特別ではない時代になりました。

入院をすると体の病気のしんどさや入院による環境の変化などから認知症の症状が強くなってしまふことがあります。しかし、それは認知症が悪くなったわけではなく体の状態がよくなったり環境に慣れてくると多くは改善します。大声や徘徊、混乱や興奮など周りを困らせてしまう行動が起こり、ご家族や医療スタッフは戸惑うことも多くあります。しかし、それは、もの忘れをして思い出せなくなったり、時間や場所がわからなくなったり、自分に起こっていることがうまく理解できなくて周りの人に説明することができずに困っている表現であることが予測されます。その困っている表現が何を示すのかを探りその人の思いを引き出し周りの人に伝えていくことが現在の私の大きな役割だと思っています。まだまだ未熟ではありますが、少しでも認知症をもつ人の思いを引き出し、そこに寄り添った看護が提供できるように努めていきます。



認知症看護認定看護師 谷川 典子

母乳外来

料金改定のお知らせ

当院の母乳外来ではお母さんと赤ちゃんにやさしい母乳育児支援を目指しています。一人30分の枠で赤ちゃんの体重・黄疸の測定や母乳の飲み方の確認、育児相談などを行っていますが、現状として30分では終わらないことが多い状態です。全てのお母さんと赤ちゃんとじっくりお話をしていきたいと、内容の充実を図るとともに、平成29年1月より料金の改定を致しました。

助産師保健指導	1回目	2回目以降
当院で出産された方が1か月検診までに母乳外来を受診した場合（乳房マッサージは別料金をいただきます）	無 料	2,000円(税抜)
他院で出産された方が当院の母乳外来を初めて受診された場合	3,000円(税抜)	2,000円(税抜)

※乳房マッサージについては、料金の改定はありません。

※乳房マッサージは、別途3,000円(税抜)がかかります。詳しくは、母子センターへお問合せください。

※医師の処方が必要な場合は追加で産婦人科受診料(保険)がかかります。

※自治体により助成制度があります。各自で問合せ、手続きをしてください。



『裕次郎さんの終活!』を 上演しました

11月12日に「終活(終了活動)」をテーマにした市民フォーラムで、演劇を上演しました。これは、地域の医療・介護の連携を推進するための在宅医療のコーディネート拠点として、当院の医療福祉事業室に「神戸市医師会北神在宅医療・介護連携支援センター」が開設されたことを受け、地域住民への普及啓発として、開催したものです。

物語は、葬儀会社の納棺体験に参加した主人公の裕次郎さんが、死に臨んだ時や死後の希望を書く「エンディングノート」を勧められることから始まります。知人の死の現実を知り、次第に自分の最期を真剣に考えることとなった裕次郎さんは、それぞれの場面で涙あり笑いありの中、5カ条をまとめていきます。

第1条 今を充実して生きましょう

第2条 「安心シート」を書きましょう

第3条 「医療の意思表示」を書いてみましょう

第4条 何でも話せる「かかりつけ医」を持ちましょう

第5条 家族で話し合う時間を持ちましょう



終活とは、人生をどのように終わらせるかという活動のことですが、「エンディングノート」を書くことで気持ちを整理し、最後に悔いを残さないために何をしておくかを考えることができます。「リビングウィル」(自分の命が不治かつ末期であれば、延命措置を施さないでほしいと書面に残しておくこと)は、日本では法的な根拠にはありませんが、元気なうちに延命処置を望むかどうかの意思表示を記しておくことは大切です。普段の生活では、「安心シート」を目立つ所に貼っておいて「名前、生年月日、持病、飲んでいる薬、アレルギー、かかりつけ医、緊急連絡先」などを記入しておけば緊急時に慌てなくても済みます。また、「とっさのときの安心カード」を携帯用として持っている、なお安心です。

高齢者が住み慣れた地域で暮らせるよう、医療や

介護、介護予防、生活支援、住まいの5つのサービスを一体的に提供する「地域包括ケアシステム」を地域住民に啓発することを目的として稽古を重ねていくうちに、多職種の顔の見える関係も構築されてきました。また、力を合わせて芝居をつくり上げることで、地域の医療・介護の連携が大切であることが再認識され、つながりがより深まっていったことが、今回の一番の収穫となりました。

地域住民の方が、「終活」をテーマにどれだけ興味を持って来場していただけるか不安でしたが、会場定員500名が満席で、大勢の立ち見もあり、入りきれない方のために急遽ロビーにテレビモニタを設置して中継をするほどで、大盛況のうちに幕を下ろすことができました。

医療福祉事業室 室長代理 森 昭与



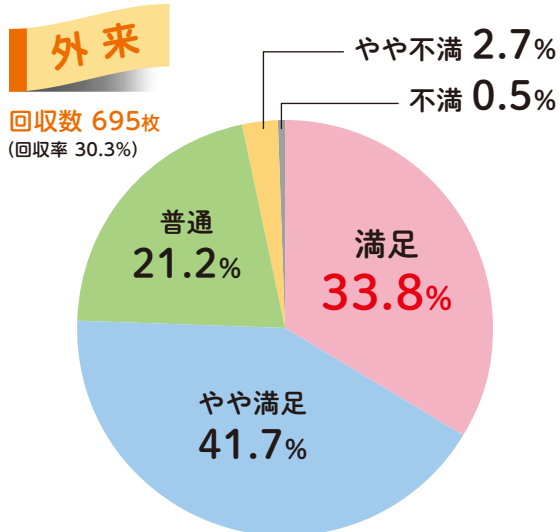


患者満足度 調査結果のご報告

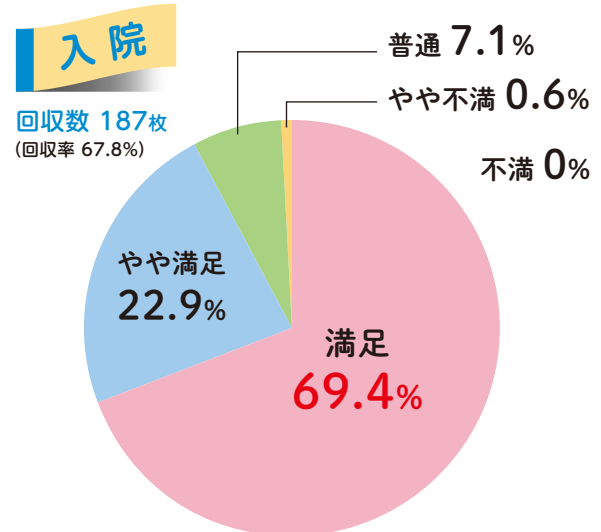


済生会兵庫県病院では、医療サービスの向上・充実を図るため、患者さんへの満足度調査を毎年実施しております。ここに、平成28年度に実施致しました調査結果について、一部ではありますがご報告いたします。調査にご協力頂きました皆さまには、厚くお礼を申し上げます。

当院の総合的な評価 (平成28年10月実施)



前年のアンケートにてご不満が多かった「待ち時間」について、一部の診療科について、時間枠にするなどの対応を行ったため、「待ち時間が短くなった」というご意見も多数頂いた一方、やはりまだ待ち時間が長いというご不満も寄せられています。今後も待ち時間の短縮に向けて努力して参りますので、ご不便をおかけしますが、ご理解の程よろしくお願い致します。



接遇について、満足・やや満足というご意見を多く頂きましたが、一部ご指摘も頂きました。ご指摘があった点については、指導・周知を徹底し、より一層患者さんの身になって温かい対応ができるように心がけて参ります。

環境について、こちらも満足、やや満足というご意見を多く頂きました。ご指摘を頂いた洗面所、トイレ等につきましては、皆様に気持ち良くお使い頂けるよう再度指導を徹底し、清潔な状態を保てるよう努力して参ります。

今後も、お寄せいただいたご意見・ご要望につきましては、より良い病院運営の参考にさせて頂き、医療サービス等の充実に努めて参ります。



ボランティア表彰 「感謝状贈呈式」を行いました

12月1日、当院にボランティアとして来られている南部裕子さんが活動1500時間を達成され、病院長より感謝状および記念品の贈呈が行われました。

当院では、平成14年9月よりボランティアの受け入れを開始し、これまで18名の方が活動されてきました。現在も7名のボランティアのみなさんに、外来の受付案内や入院病棟案内、車いすの介助や子守り等、主に患者さんへのサービス向上のために様々な活動をして頂いています。

今回表彰された南部さんは、当院のボランティア受入れ開始時からお世話になっており、「不安な気持ちで病院に来られた方の力になりたい」「人の役に立ちたい」との思いからはじめられ、今後も体力が続く限り活動を行いたいと話されました。

表彰式の後も、駆け足で外来に向かわれ、困っている患者さんへの声掛けやサポートを精力的に行われる姿に、当院にとってかけがえのない存在であることを再認識しました。ボランティアの皆さま、いつも本当にありがとうございます。



あなたもボランティアをしてみませんか

当院では、病院ボランティアを募集しています。活動内容は、主に玄関ロビーで受付のご案内や、入院される患者さんを病棟に案内する、歩行が困難な方への車椅子の貸し出し等です。詳細は、電話にてお問合せ下さい。

電話：078-987-2222(代表)「ボランティアの募集について聞きたい」とお申しつけ下さい。

管理栄養士が考えた ヘルシーレシピ



第1回「八宝菜」

今回のポイント

旬の野菜をたっぷり使うことで、野菜不足を解消します。特にメインの白菜は、量をたくさん食べられる分、ビタミンCも多くとれます。ビタミンCは免疫力を高め、風邪予防にも効果があります。

材料(4人分)

白菜	400g	(調味料)	
豚肉	200g	鶏ガラスープの素	小さじ1
エビ	100g	酒	小さじ1
人参	50g	醤油	小さじ1
ピーマン	40g	油	小さじ1
生椎茸	30g	オイスターソース	小さじ1
たけのこ	50g	水溶き片栗粉	適量
ねぎ	少々		

【作り方】

- ① 白菜はそぎ切りにする。人参、ピーマン、生椎茸、たけのこは短冊切りにして食べやすい大きさに揃える。
- ② 豚肉とエビは1口大に切り、酒と塩コショウでなじませ、片栗粉をまぶす。
- ③ 中華なべにお湯を沸かし、②を下茹でする。
- ④ 中華なべに油を少しひき、野菜を炒め概ね火が通ったら豚肉、エビも加えさらに炒める。
- ⑤ ④に調味料を加え塩コショウで味を整え水溶き片栗粉でとろみをつける。



健康講座 のご案内

地域の皆さまが病気や医療について知識を深め、健康増進・維持に役立てていただけるよう、定期的に健康講座を開催しております。どなたでも、予約等の手続きなく、無料にてご参加いただけます。ぜひ、お気軽にお越しください。



日時 3月25日(土) 10:00~11:00

テーマ 子どもの発熱・子どものワクチン

場所: 2階講義室

【講座1】小児の発熱 ~ホームケアと受診のめやす~
小児科医師 石井 優子

【講座2】こどものワクチンQ&A
小児科医師 濱田 佳奈



※ 質疑応答の時間もあります。

病院理念

信頼・安心の医療の提供

基本方針

- * 患者の立場に立った医療、患者の満足する医療を追求する。
- * 地域中核病院として分担すべき役割や機能を明確にし、連携を通して地域医療に貢献する。
- * チーム医療を推進し、医療の質を向上する。
- * 予防からリハ、社会復帰までの全人的な包括医療を推進する。
- * 職員各自互いを尊重し、切磋琢磨して、「誇りの持てる職場づくり」に努める。
- * 医療を通じて社会に貢献する。



社会福祉法人
恩賜財団 **済生会兵庫県病院**

〒651-1302 兵庫県神戸市北区藤原台中町5丁目1番1号
TEL. **078-987-2222** (代表)
URL. <http://saiseikai.info>

診療受付時間 8:30~11:30 月曜日~金曜日

休診日 土曜日・日曜日・祝日・年末年始

★病院⇄岡場駅間の無料送迎バスも運行しております。(休診日を除く)

発行所/済生会兵庫県病院
編集長/尾古 俊哉
編集/広報委員会